

# 守山市発達支援センターだより

令和5年3月号

令和5年3月15日発行

守山市発達支援センター（発達支援課）  
守山市下之郷三丁目2番5号  
すこやかセンター内



## 守山市発達支援センターの取組紹介

### 中学校卒業後の支援について

守山市では、令和3年4月から滋賀県と「児童生徒の健全育成に係る県と市町の連携協定」を締結し、県立学校へ進学した生徒のうち、不登校ケース、発達障害等の特別な支援を必要とするケース、中途退学および転学等が心配されるケース等について、切れ目のない支援が受けられることを目指しています。

中学校卒業時には、市内中学校から保護者の方の同意を得て「個別支援計画」を進路先に送付し、発達支援課が進路先と連携をとっています。必要に応じて進路先に市職員が訪問し、学校生活での困りごとを把握して、相談を受けたり、関係部署との連携を図ったりしています。

当課では、高校生を含めた青年期の発達障害などに関する相談を受け付けています。「学校生活がうまくいかない」「卒業後の進路や就職を心配している」など、生活で困っていることの解決に向けて、本人との面談や知能検査の実施、保護者との面談を実施しています。

《相談の流れ》①電話、メールで予約 ②日程調整のご連絡 ③初回相談（すこやかセンター3階）



## シリーズ 発音を育てる「か・き・く・けこ」

### シリーズ④ ～ コミュニケーション ～

ことばが音になって口から出る（発話）ためには、“分かることば（概念や思考）”が必要です。「皮をむいて食べる」「おいしい味がする」「あれはリンゴだ」という概念は、“何回も見たり”、“食べたり”という日々の生活の中でさまざまな経験を積み重ねることによって身に付き、“分かることば”が増えていきます。そして、もう一つ大切なことは、“伝えたい気持ち（コミュニケーション意欲）”です。分かることばが少なくても、伝えたい気持ちが強いと、それなりに相手に伝わります。しかし、伝えたい気持ちが弱いと、ことばをたくさん知っていて、考えることができ、舌や口唇を使って発音する力がちゃんと備わっていても、「ここでは言わないでおこう」ということになってしまいます。分かることばを増やし、口が動くようになれば、ことばが出るという程簡単ではありません。

「コミュニケーション意欲」を育てるためには、発音が聞き取りにくいと感じても、指摘したり言い直させたりせず、「どんな時もあなたの言いたいことを聴きますよ」のメッセージを持って、今日の前にいるお子さんに向かって話してあげてください。また、子どもは聞く力や、一度にたくさんの言葉を理解する力も発達の途中です。ゆっくりと話しかけ、子どもの育ちを見守りつつ“楽しくおしゃべりする時間”を大切にしてください。「伝わって嬉しい!」そんな気持ちが、発音の土台へとつながっていきます。

#### ことばの水鉄砲

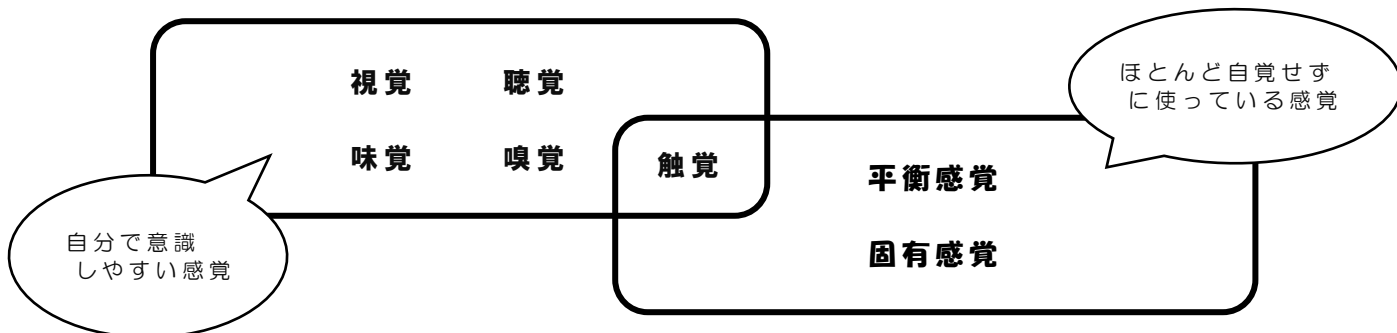


【引用・参考文献】「発達障害とことばの相談 子どもたちの育ちを支える言語聴覚士のアプローチ 著 中川信子（小学館新書）」

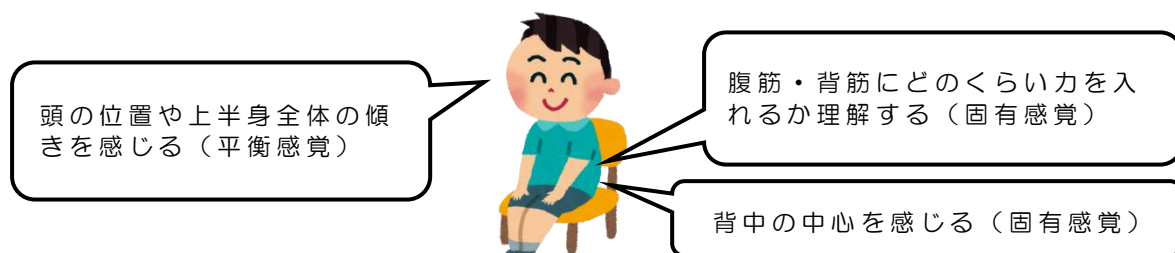
## ～ 感覚について ～

私たちは日常的に様々な“感覚”を使って生活しています。気になる行動を見せる子ども達の行動の背景には、こうした感覚のアンバランスさが関連していることがあります。

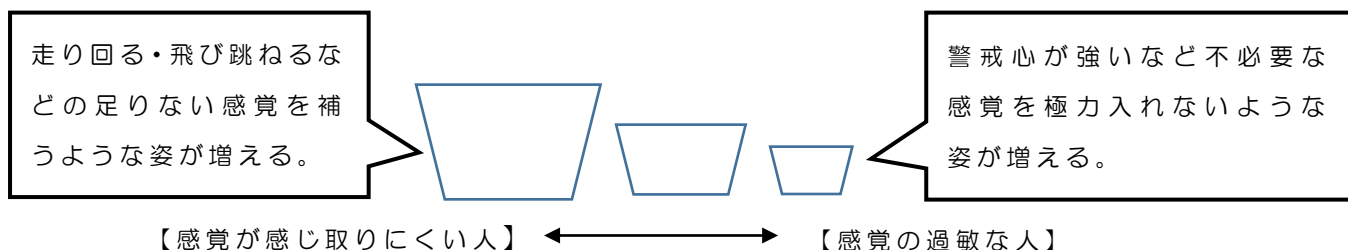
感覚の中には自分で意識しやすい「視覚」「聴覚」「味覚」「触覚」「嗅覚」といった感覚と、ほとんど自覚せずに使っている「平衡感覚」（体の傾きやスピードを感じる）「固有感覚」（筋肉や関節に感じる、力の入れ加減に関わる感覚）という感覚が存在します。触覚には実際に触れて感じる機能のほかに、無意識に使っている本能的な機能もあります。



私たちはこうした感覚をバランスよく使うことで様々な動作を適切に行うことができます、例えば、「椅子に座る」という動きも複数の感覚をバランスよく感じられることで成立します。



人はそれぞれ感じ方に違いがあります。例えば、生まれながらに微細な音を聞き分ける感覚が敏感で音楽的センスに結びつく人がいる一方、聴覚が敏感すぎて大きな音に不快感を示す人もいます。刺激を受け止める様子をコップの大きさに例えると、感覚の過敏な人はコップが小さい状態、感覚が感じ取りにくい人はコップが大きい状態と言えます。



感覚刺激の受け止め方の違いが、個性や能力の発揮に結びついていくことがあります。子どものつまずきも、個性の一つと捉え、理解していくことが大切です。表面的な行動だけでなく、「どんな感覚のつまずきが隠れているのかな」と考え、サポートの方法を探っていくことが大切です。